

# おめでとーいございます 輝く功績 春の叙勲三人



旭日小綬章  
赤水 照子 さん(中村)



瑞宝単光章  
内田 一男 さん(三成)



瑞宝単光章  
若槻 淑子 さん(高田)

赤水さんは、平成十七年五月に「しまね女性会議」(県内十九団体で構成)の会長として、県内女性団体のネットワークの形成・充実に力を注がれ、女性の地位向上と社会参加の促進を図られています。また、島根県連合婦人会長として、男女共同参画社会づくり、地域の環境保全や美化消費者被害への対応など幅広い分野で活躍されています。

これまで、平成十八年に内閣府特命担当大臣表彰、平成二十二年に内閣総理大臣表彰を受章されています。

内田さんは、昭和三十五年旧仁多町消防団に入団され、六十二年に三成分団分団長、平成八年に副団長、十二年一月から三年間、仁多町消防団団長の要職を歴任されました。平成十一年には、第十三次特別検閲で消防団最高の榮譽である、特別表彰を受賞され、平成十四年に全国消防操法大会の出場、島根県消防操法大会では、九年連続優勝、準優勝の栄冠に輝くなど四十二年六月の永きにわたり、消防団の発展に寄与されました。

若槻さんは、昭和四十九年に民生児童委員に就任され、三十三年の永きにわたり、生活保護・高齢者世帯など擁護世帯に対して、相談・援助活動に励み、その職務を忠実に果たしてこられました。

さらに、仁多町民生児童委員協議会では、女性部長、副会長の要職も歴任され、他の民生児童委員の模範として活動されました。

また、昭和六十三年から平成十八年まで保護司として、青少年の更生保護活動や相談活動に尽力され、地域福祉の推進に貢献されました。

## 元行政相談委員 廣原恒義さんに感謝状

行政相談委員として、永年にわたり活動された廣原恒義さん(竹崎)に4月30日、総務省島根行政評価事務所から感謝状が贈られました。

廣原さんは平成2年4月から平成21年3月までの19年の永きにわたり、行政相談委員として、毎月1回の行政相談所の開設や行政相談活動に尽力され、年間10件から20件の多様な相談業務を行ってこられました。

また、平成11年から、島根県行政相談委員協議会理事、雲南地区副支部長などの要職も歴任され、町民と行政のパイプ役として貢献されました。



奥出雲町を代表する観光地「鬼の舌震」で四月二十六日、川開き安全祈願祭が行われ、観光シーズン中の無事故を祈願しました。玉日女神社近くの休憩所で行われた神事には、町観光協会、仁多土木事業所、三成広域交番、JR木次鉄道部の関係者約四十人が出席し玉串をささげました。

町観光協会長の岩田町長が、現在、国に許可申請中の、長さ約百六十坪の吊り橋や新たに遊歩道設置の計画について触れ、「奥出雲の一大観光拠点となることを期待している」とあいさつがありました。

大型連休期間中は、川ツツジも見ごろを迎え、多くの観光客が新緑の渓谷をゆったりと散策し、奥出雲の自然を満喫しました。



大馬木川にコギを放流する岩田町長

## 観光シーズン幕開け 鬼の舌震で川開き

奥出雲町を代表する観光地「鬼の舌震」で四月二十六日、川開き安全祈願祭が行われ、観光シーズン中の無事故を祈願しました。

この後、玉日女神社から御神酒を注ぎ、川を清め、「コギ約百匹が放流されました。

## 交流館三国がリニューアル 「鉄の彫刻美術館」が完成



下田幸知さん(右)から説明を聞き作品を鑑賞する溝口知事らセレモニー出席者

奥出雲おろちループにある「交流館三国」の館内に、鉄の彫刻美術館が完成し、四月二十二日、オープニングセレモニーが行われました。

式典には、鋼鉄モニュメント彫刻で世界的に知られる故下田治氏の妻でアートコンサルタントの幸知さん(二ユーヨーク在住)や溝口県知事など約百五十人が出席し、テープカットなどで開館を祝いました。

作品は四十四点で、美術館内のほかに、交流館庭園にも設置されています。

式典で岩田町長は「世界で唯一、「たたら操業」が行わ

れている奥出雲に鉄の彫刻美術館が開館することは町民の誇り。未永く親しまれ、多くの人に鑑賞してほしい」とあいさつがありました。

また、幸知さんは「彫刻と建物、美しい自然が一体となり、すばらしい」と感想を話されました。

「交流館三国」は、「カフェ&レストラン三国」として改装、また隣接地には、乗馬や乳搾りなどの体験ができる観光牧場も設置され、今後「おろちループゾーン」として本町の情報発信基地として期待されます。

## 今年で最後の 尾原ダム「菜の花まつり」盛大



菜の花に囲まれた舞台上で上演された神楽を楽しむ来場者

斐伊川上・下流住民の交流を図る「尾原ダム菜の花まつり二〇〇九」が四月二十六日、奥出雲町林原地内の尾原ダム建設事業地で開催されました。今年で十回目となる菜の花まつりも、来年の夏前に試験たん水が始まり、会場としてきた場所は、湖底に沈むため今年が最後の開催となりました。

当日は、あいにくの小雨模様で、肌寒い一日となりましたが、来場者は約三〇〇人の菜の花畑や様々なイベントを楽しみました。

また会場には、手打ちそばの実演販売や猪汁、山菜天ぷら

らなど地元の特産品が立ち並び、イベント会場では、「仁多乃炎太鼓」と「温泉こども神楽」の上演もあり、来場者は自然豊かな上流域の恵みを満喫していました。

このまつりの開催当初から携わっているNPO法人「斐伊川くらぶ」の小谷武理事長は「ダムの恩恵を受けている下流域の住民が、ふるさとの土地を手放し、ダムの建設に協力された上流域の皆さんの思いを忘れてはいけません。今後、上・下流の住民が一体となり、交流が続いていくよう願っています」と話されました。